

(別表-1)

●対策の優先順位の考え方

(1) 優先順位付け手法の確認

(1) 各維持管理区分の補修補強方針

全ての維持管理区分の橋梁において予防保全を実施することによりトータルコストの最小化が期待できる。

そのため、橋梁マネジメントシステムにより個別橋梁における最適な補修シナリオを選定する際は、維持管理区分による補修補強方針の差別化を行わず、全ての維持管理区分の橋梁に対して、予防保全も視野に入れた補修工法の選定を行うものとした。

表-3.19 維持管理区分と補修補強方針

点検健全度		維持管理区分		
		A	B	C
5	良	—	—	—
4	↑ ↓	—	—	—
3		予防保全	予防保全	予防保全
2		事後保全	事後保全	事後保全
1	悪	大規模補修・更新	大規模補修・更新	大規模補修・更新

(2) 補修補強の優先順位付け

橋梁マネジメントシステムでは、以下に示す手順に基づき補修補強の優先順位付けを各橋梁の部材単位（径間毎）で行っている。

手順 1	対象年度順に並び替える
手順 2	対象年度が同じ場合は、主要部材、二次部材の順に並べる
手順 3	次年度の点検健全度の低い順に並べる
手順 4	点検健全度が同点の場合、維持管理区分 A, 区分 B, 区分 C の順に並べる
手順 5	同一点検健全度・同一維持管理区分の場合は、BHI(予測値)の小さい順に並べ替える
手順 6	BHI が同レベルの範囲内(10 の範囲)の場合は、費用便益費(BC)の大きい順に並べ替える

図-3.6 補修補強の優先順位付け手順

表-3.20 部材の点検健全度と維持管理区分から決まる優先順位（手順 3, 4）

点検健全度	維持管理区分		
	A	B	C
5 良	—	—	—
4	—	—	—
3	⑥ 予防保全	⑧ 予防保全	⑨ 予防保全
2	④ 事後保全	⑤ 事後保全	⑦ 事後保全
1 悪	① 大規模補修・更新	② 大規模補修・更新	③ 大規模補修・更新

※ ○内の数字が優先順位

※ 維持管理区分 A の⑥予防保全を維持管理区分 C の⑦事後保全より優先している。